

## 「乳がん検診と国際がん医療・研究センターの取り組み」

10月は乳がん啓発月間になります。最近も上皇后美智子さまの報道があったばかりですね。今回は、高齢者の乳がん、通常の乳がんと検診について、神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター（ICCRC）での取り組みについてお話しします。



神戸大学医学部 先進的がん医療・研究推進学 乳腺内分泌外科 特命教授  
神戸大学医学部附属 国際がん医療・研究センター 副センター長

たに の ひろ かず  
**谷野 裕一**

63年和歌山市生まれ、87年和歌山医大卒。慶應大学、メリーランド州立大学の留学を経て2013年より北里大学病院乳腺甲状腺外科准教授。2017年からは神戸大学医学部附属病院乳腺内分泌外科、2018年からは国際がん医療・研究センター副センター長、特命教授として、トリプルネガティブ乳がん研究センターを立ち上げ、基礎研究、臨床試験に取り組んでいる。2010年にNPO法人いきいき和歌山がんサポートを立ち上げ、理事長としてピアサポート、就労支援などに取り組んでいる。

まず、みなさんが今気になっているご高齢の方の乳がんについてお話しします。もう80才だから乳がんにならないと思って、とか、90才でも乳がんになるんですかなどというお声を耳にします。答えは、80才でも90才になっても乳がんはあります。乳がんは体表面から触れることが出来、自分で発見することが出来るがあるので、ご高齢の方の場合には自己検診をして頂くと良いと思います。

また、乳がんになったらもう何をやっても仕方がないでしょとか、高齢の方に手術なんてかわいそうと言う声も聞きます。しかし、そのままにしておくと乳がんが乳房で大きくなって皮膚から飛び出します。出血したり、感染したりして、おうちや施設で過ごせなくなります。そうなってくると、いやでも入院しなくてはならなくなり、長く苦しい思いをされます。だから、そうならないように、手術が選択されることも多いです。麻酔さえ問題なければ、乳がんの手術は全身にほとんど影響しません。副作用の少ないホルモンの薬で小さくすることがうまく行く場合があるのですが、うまく行かない場合には大きくなってくるので、手術をする方が、体力に影響が少ないことが多いです。



①高齢でも乳がんは発生します。

②乳がんをそのまま置いておくとおうちや施設での生活が出来なくなります。

③通常の乳がんの手術は体力にはほとんど影響しません。

以上、ご高齢でも乳房のしこりに気づいたらすぐにかかりつけ医に相談しましょう。



次は若い方の乳がんについて。乳がんの発生のピークは40, 50代です。報道では怖い話ばかりが耳に付きますね。でも、実は乳がんは治りやすいがんです。年間9万人発生していますが、亡くな



るのは1万5千人。8割以上治ります。でも、もっと治る率を上げたいですね。一番良い方法は早く発見することです。どうすれば早く発見出来るのでしょうか？

先ず思いつくのは検診です。検診で発見される乳がんの約1/3は1cm以下、もう1/3は1から2cmというデータ（全国乳がん患者登録調査2006年）があります。でも、マンモグラフィ検診に向いていない人もいます。どんな方が向いていないのでしょうか？

マンモグラフィは、撮ってみないと痛いか痛くないか分かりませんし、向いているかどうかかも撮ってみないと分かりません。乳腺が

真っ白に写る人はあまりマンモグラフィに向いていません。マンモグラフィでは乳がんは白い塊で見えるのですが、乳腺が白いと見えづらいです。だから、痛みだけでなく、見え方でもマンモグラフィを選ぶかどうか決めた方が良いですね。しかし、エコーなら被爆もありませんし、痛みもなくて受けやすいですね。マンモグラフィが白い方にはエコーが見えやすい適した検査になります。



### ①死亡率低減には検診を！

### ②検診はマンモグラフィに向いている人、エコーに向いている人がいる。

さて、最後に神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター（ICCRC）の取り組みについてです。ICCRCの乳腺外科では2つの取り組みを行っています。1つは早期発見、もう一つは治療開発です。早期発見で取り組んでいるものは2つ。マイクロ波マンモグラフィと涙のエクソソームを検出する検査です。テレビでも有名になりましたが、神戸大学大学院理学研究科の木村建次郎教授が開発しているマイクロ波マンモグラフィは、携帯電話の1/100の電磁波を乳房に当てて腫瘍があるかないかの判定をします。そろそろ治験を行い、乳がんの発見に対する有効性を確かめる段階になってきました。でも、あくまでも研究なので、マイクロ波マンモグラフィを受けて異常がないからと言って検診をやめるのは良くないです。実用化に向けて木村先生と頑張りますので、もうしばらくお待ち下さい。もう一つは、涙を調べてがんから出てきた物質を検出する装置の開発です。神戸大学大学院工学研究科の竹内俊文教授が開発され、私達と乳がんの早期発見に使えないか共同研究中です。

治療の開発も行っています。新薬の開発と、ジェネリックの臨床試験の2つの課題で研究しています。新薬



は、製薬企業とトリプルネガティブ乳がんの患者さんに使える薬の共同開発研究です。どんなタイプの薬がどんな人に効くのか、実際の乳がん患者さんの手術検体で試験する予定です。いきなり患者さんで試すわけにはいかないので、色々な段階の試験が必要です。もう一つは、今、肺がん、卵巣がんなどで使われているカルボプラチニンの臨床試験です。神戸大学が発信して全国20数施設で行います。お金も沢山かかりますが、一般からの寄附金で行うことにしておる先進的な研究スタイルです。寄付も募集しているので、よろしくお願ひいたします。

10月は乳がんの啓発月間で、10月12日にはピンクリボンフェスティバルが神戸でおこなわれます。出演は4回目ですが、神戸では2回目です。アンミカさんとのトークもあります。ぜひお越しください。

# ピンクリボンフェスティバル2019が開催されます



## ◆乳がん検診を受けましょう

日本人女性の11人に1人は生涯のうちに乳がんにかかると言われています。また、40～60代女性のがん死亡原因No1は乳がんです。ただし乳がんは早期発見ができ、適切な治療が受けられれば、生存率がとても高いがんです。定期的にセルフチェックを行うことや、検診を受診することが、早期発見の秘訣です。神戸市の制度(2年に1回受診可能)を利用すると、40歳代は2,000円、50歳以上は1,500円と、自己負担額を抑えて受診ができます。

## ◆10月はピンクリボンフェスティバル

10月は乳がんの早期発見・早期治療に向けた啓発のための、ピンクリボン月間です。ピンクリボンに関する活動は、1980年代にアメリカで始まりました。例年神戸市でも日本対がん協会主導のもとで、朝日新聞社等とともに「ピンクリボンフェスティバル」が開催されます。市内の各地で様々な催しが行われます。

期間初日の10/1はモザイクの大観覧車、BE KOBEのモニュメント等がピンクにライトアップされるほか、三宮・元町の各所で街頭キャンペーンが行われます。

また、10/12には期間中最大のイベントである「スマイルウォーク」が開催されます。乳がん検診の大切さを訴えながら市内各所をウォーキングする参加型イベントで、10km、5km、3kmの3コースが用意されています。ウォーキングの発着会場でもあるハーバーランド内スペースシアターにて、協賛企業によるブースの出展や、専門医である神戸大学医学部の谷野裕一先生、モデル・タレントであるアンミカさんによるトークショーも行われます。「スマイルウォーク」は参加受付を開始しておりますので、ぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。(トークショーについては事前申込不要、詳しくは「ピンクリボンスマイルウォーク神戸」で検索)



近年、著名人の乳がんに関するニュースが多く取り上げられており、関心も高まっていますが、神戸市における検診の受診率には低迷しています。自身のためにも、家族のためにも、「ピンクリボンフェスティバル」をきっかけに乳がんについての正しい知識を身につけ、定期的な検診を心がけましょう。

誰もが健康になれるまちへ

# 健康創造都市KOBE

診断結果は全10パターン!  
さあ、あなたは何タイプ??

健康への関心度がわかるWEBコンテンツ。  
5つの設問に答えると、あなたを神戸ならではの生き物や場所に例えて診断します。

診断はこちらから! ⇒⇒⇒



## 神戸市150万人の WEB 健康診断



## 自身の健康、管理できていますか?

生活習慣の改善はまずは、自身の健康の管理から。

毎日続けるのが苦手という方は、年1回の健診結果の管理から始めましょう。

MY CONDITION KOBEでは、紙で受け取る健診結果をカメラで「かざす」だけで、自動読み込みすることができ、さらに、毎年の変化をグラフ化して確認することができます。これで、あなたも、健康への第一歩を。

MY CONDITION KOBE利用登録はこちらから! ⇒⇒⇒



登録がお済みでない方に朗報です!

今なら、登録していただいた方の中から抽選で、6名に豪華プレゼントが当たります! 外れた方にはダブルチャンスも!

※すでに、アプリご利用の方は、健康ポイントを貯めて、特典に応募してくださいね!



公益財団法人神戸医療産業都市推進機構  
クラスター推進センター  
ヘルスケアサービス開発支援事業事務局

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目5番2号 神戸キメックセンタービル7F

電話: 078-306-0719 FAX: 078-306-0752 E-mail: healthcare@fbri.org

<https://www.fbri-kobe.org/cluster/healthcare/supporter.php>

